

モデル事業名	元気なお年寄りボランティアによる共助のしくみ構築とほりあいのある地域づくり
活動団体名	特定非営利活動法人 どんぐり会
ホームページ	<a href="http://npo-dongurikai.com/">http://npo-dongurikai.com/</a>
所属/ 担当者名	ご担当者氏名 (副理事長 (事務局長) 宮川 佳子)
連絡先	電話番号 0581-52-2512、Eメールアドレス donguri@ccy.ne.jp
活動地域	岐阜県山県市富波地区 (市北部の青波地区と富永地区をあわせた圏域)

● **活動地域の概要**

【公共交通】市循環バス

【産業】農業・水栓バルブ工業・アパレル産業 (いずれも家内工業的)



【位置図】岐阜県地図内  
赤点が富波地区



山県市全体図  
赤点が拠点「青波福祉プラザ」



【20年度事業耕作地】



【21年度事業予定地】

富波地区の元気なお年寄り住民が、能力や特技を活かし、サービスの「受け手」という立場だけでなく「担い手」になってもらうべく、応募団体がコーディネート役となり、ボランティアを組織化し、やりがいのある暮らしづくりを目指す。

● **活動地域の課題**

介護保険認定率は12.4%であり全国平均より低い。これは、市内の公民館17ヶ所で高齢者とじこもり予防事業(いこいの広場)の実績でもあるが、サービスを「する・される」関係の固定化やニーズの多様化などの問題も浮上しつつある。

つまり、北部地域の持続可能性に取り組む必要がある一方、高齢者の多くは介護を必要とせず、在宅で暮らす元気なお年寄りであり、その活力や絆を活かせる素地と潜在力が確認できる。

## ● 活動の内容

### ・平成20年度

#### ○調査研究

地域ニーズや課題の把握・整理・活動方針の検討

#### ○多様な主体によるネットワークづくり

多様な関係者とのネットワーク会議の開催（山県市保健福祉部、山県市社会福祉協議会、富波地区自治会・老人会 JA ぎふ、食生活改善連絡協議会などとの定期協議）

#### ○試行実験

高齢者とじこもり予防事業（山県市：いこいの広場、社協：ふれあいサロン等）の場での、本事業の取り組みへの参加呼びかけ、各種講座開設等

#### ○ボランティアスタッフ養成のための手引書づくり

成果報告書の作成（食事献立表、男の料理教室・畑作り・味噌仕込み・蒟蒻づくり等々各種講座の冊子）

### ・平成21年度

#### ○富波産野菜・加工品の創出

昨年度と同様の事業である「畑作り」にて富波産の里芋を栽培し、収穫した里芋を収穫祭（いも煮会）にて出来栄を披露し商品化の道を探る。また、地域住民との交流を深める。

#### ○各種講座開催

「男の料理」講座 平成21年11月 9日

「蒟蒻づくり」講座 平成21年12月26日

「味噌造り」講座 平成22年2月予定

#### ○グリーンツーリズム

都市部へフィールドを提供することによって広域の地域交流を深める。富波地区の複数の住民が自宅を開放して、民泊学習体験を企画。また、市の施設で当該地区の北部に隣接する「グリーンプラザみやま」を利用した体験学習を企画する。

## ● 活動の成果

### ・平成20年度

（活動の成果、地域内での反響・効果及び周辺への波及効果等について記入）

#### ○各種講座の成功

「蒟蒻づくり体験講座」から「手造り味噌講座」まで順調に遂行できたことが第一の成果である。各講座の報告やレシピを冊子にしたが、これが21年度の手引書として核にたった。

これらは、多様な主体の協力や援助があって成り立ったが、特に市保健福祉部、山県市食生活改善連絡協議会、および、JAの支援が大きかった。



#### ○ボランティア・コーディネーター制

コーディネーター制をとり、その人脈により、講座参加者が集り、講師を招聘できたりしたことなど、多様な成果に繋がった。

#### ○コーディネーターの勧誘で地元の元気なお年寄りの4名が賛同され、畑づくりボランティアとなって

「畑作り講座」が開始された。この里芋づくりボランティアから作付け畑を無償で貸与されたことも大きな成果である。

#### ○「蒟蒻づくり体験講座」に参加した3名（青波地区）の蒟蒻生産者が、本事業に賛同され、蒟蒻芋の栽培や蒟蒻の商品化への協力が得られることとなった。里芋作りと同じような過程をたどり持続した蒟蒻栽培に発展していく可能性が出てきた。

## ・平成21年度

(活動の状況、地域内での反響・効果及び周辺への波及効果等について記入)

### ○富波産野菜・加工品の創出

昨年度の事業である「畑作り」にて富波産の里芋を継続し栽培した。

平成21年11月29日(日) 収穫祭(いも煮会)

収穫した里芋を大なべ3個(約200人分)にて「いも汁」をつくり試食してもらう。

里芋の評判は良く市内のイベントでもこれを使用したいとの申しで数件あり。

商品化の自信となる。また、福祉施設若松学園、社協、地元自治会・老人会等など約250名の参加者があり、地域住民との交流を深められた。



いも煮会

### ○各種講座開催

「男の料理」講座 平成21年11月 9日

「蒟蒻づくり」講座 平成21年12月26日

「味噌造り」講座 平成22年2月予定

参加者が予定通り集まり、順調に行われた。



蒟蒻づくり

### ○グリーンツーリズム

新型インフルエンザが障害となる。

富波地区の複数の住民が自宅を開放して、民泊体験学習および「グリーンプラザみやま」を利用した体験学習を企画したが、いずれも、学級閉鎖、休校が重なり中止となる。

しかし、農業体験として「虫とり・草とり」や「収穫作業」には福祉施設若松学園の児童や市内都市部の子ども会の親子が参加し、一応の農村体験が出来て、小さいながらグリーンツーリズムとなった。

## 今後の課題及び展望

### ・課題

#### ①地域づくりの更なる拡大

地元の富波地区自治会や老人会の組織は、構成員は多くいるものの、十分機能していないため、活動が停滞している。その要因は様々ではあるが、一つに、組織の責任者が短期間の交代制・当番制であるため、リーダーシップが不足し、従来の枠組みにとらわれ、時代に適した展開や新規事業を取り込むことが難しい。

#### ②畑作りの進展

里芋栽培地は連作ができない。現在の畑作りボランティアによる栽培地の提供に依存することに限界がある。

コーディネーターの努力により栽培地が確保されたが、個人の努力には限界があり、新しい耕作所有者の確保が課題となる。

### ・展望

#### ①地域づくりの更なる拡大

地域の自治会や老人会の組織を活性化させ、持続的な活動にしていくことが、「新たな公」に繋がり、当会の目的である「とじこもり予防事業」を進める力となり、サービスを「する・される」の関係が変わっていくことが期待される。

#### ②畑作りの進展

耕作地の拡大については、市農政部やJAの協力を得て、地域に「休耕田の有効利用」を政策的に呼びかけ、「新たな公」もその一施策であることを認識してもらうことで栽培地を拡大していく。蒟蒻栽培地については、昨年度の蒟蒻づくり講座受講者の土地を利用させていただき、蒟蒻いも(生育まで3年かかる)の提供をお願いする。